

2021年11月21日

主日礼拝

《礼拝》

礼拝讃美歌⇒18番

『妙なる愛かな 天なる御神は』

聖書⇒ガラテヤの信徒への手紙 2:20~21節 (MT 姉)

『生きているのは、もはやわたしではありません。キリストがわたしの内に生きておられるのです。わたしが今、肉において生きているのは、わたしを愛し、わたしのために身を献げられた神の子に対する信仰によるものです。わたしは、神の恵みを無にはしません。もし、人が律法のお陰で義とされるとすれば、それこそ、キリストの死は無意味になってしまいます。』

礼拝讃美歌⇒234番 (旧 201番) (MT 姉)

『生くるかいもなしとひとり』

聖書⇒詩編 99:1~5:章 (OH 兄)

『主こそ王。諸国の民よ、おののけ。主はケルビムの上に御座を置かれる。地よ、震えよ。』

主はシオンにいまし、大いなる方。すべての民の上に高くいます。

御名の大きいなること、畏るべきことを告白せよ。主は聖なる方。

力強い王、裁きを愛し、公平を固く定め／ヤコブに対する裁きと恵みの御業を／御自ら、成し遂げられる。

我らの神、主をあがめよ。その足台に向かってひれ伏せ。主は聖なる方。』

聖書⇒ヨハネの黙示録 17:1~5:章)

『この者どもは小羊と戦うが、小羊は主の主、王の王だから、彼らに打ち勝つ。小羊と共にいる者、召された者、選ばれた者、忠実な者たちもまた、勝利を収める。』

礼拝讃美歌⇒367番 (聖歌 5828番) (OH 兄)

『神の御子にますイエス』

聖書⇒ヨハネによる福音書 9:40~41:節 (YA 姉)

『イエスと一緒に居合わせたファリサイ派の人々は、これらのことを聞いて、「我々も見えないということか」と言った。イエスは言われた。「見えなかったのであれば、罪はなかったであろう。しかし、今、『見える』とあなたたちは言っている。だから、あなたたちの罪は残る。』

《パン裂き》

聖書⇒ルカによる福音書 22:19-20、27:節 (KH 兄)

『それから、イエスはパンを取り、感謝の祈りを唱えて、それを裂き、使徒たちに与えて言われた。「これは、あなたがたのために与えられるわたしの体である。わたしの記念としてこのように行いなさい。」食事を終えてから、杯も同じようにして言われた。「この杯は、あなたがたのために流される、わたしの血による新しい契約である。」

食事の席に着く人と給仕する者とは、どちらが偉いか。食事の席に着く人ではないか。しかし、わたしはあなたがたの中で、いわば給仕する者である。』

礼拝讃美歌⇒146 番 (旧 61 番) (KH 兄)

『子羊の血にて』

《建徳》

聖書⇒ヨハネによる福音書 13:1-7、8~10,11~17:節 (KH 兄)

『さて、過越祭の前のことである。イエスは、この世から父のもとへ移る御自分の時が来たことを悟り、世にいる弟子たちを愛して、この上なく愛し抜かれた。夕食のときであった。既に悪魔は、イスカリオテのシモンの子ユダに、イエスを裏切る考えを抱かせていた。イエスは、父がすべてを御自分の手にゆだねられたこと、また、御自分が神のもとから来て、神のもとに帰ろうとしていることを悟り、食事の席から立ち上がって上着を脱ぎ、手ぬぐいを取って腰にまとわれた。それから、たらいに水をくんで弟子たちの足を洗い、腰にまotta手ぬぐいでふき始められた。シモン・ペトロのところに来ると、ペトロは、「主よ、あなたがわたしの足を洗ってくださるのですか」と言った。イエスは答えて、「わたしのしていることは、今あなたには分かるまいが、後で、分かるようになる」と言われた。

ペトロが、「わたしの足など、決して洗わないでください」と言うと、イエスは、「もしわたしがあなたを洗わないなら、あなたはわたしと何のかかわりもないことになる」と答えられた。そこでシモン・ペトロが言った。

「主よ、足だけでなく、手も頭も。」イエスは言われた。「既に体を洗った者は、全身清いので、足だけ洗えばよい。あなたがたは清いのだが、皆が清いわけではない。」イエスは、御自分を裏切ろうとしている者がだれであるかを知っておられた。それで、「皆が清いわけではない」と言われたのである。

さて、イエスは、弟子たちの足を洗ってしまうと、上着を着て、再び席に着いて言われた。「わたしがあなたがたにしたことが分かるか。あなたがたは、わたしを『先生』とか『主』とか呼ぶ。そのように言うのは正しい。わたしはそうである。ところで、主であり、師であるわたしがあなたがたの足を洗ったのだから、あなたがたも互いに足を洗い合わなければならない。わたしがあなたがたにしたとおりに、あなたがたもするようにと、模範を示したのである。はっきりしておく。僕は主人にまさらず、遣わされた者は遣わした者にまさりはしない。このことが分かり、そのとおりに実行するなら、幸いである。』

聖書⇒ルカによる福音書 22: 27節

『食事の席に着く人と給仕する者とは、どちらが偉いか。食事の席に着く人ではないか。しかし、わたしはあなたがたの中で、いわば給仕する者である。』

聖書⇒マタイによる福音書 7:21 節 (MS 姉)

『こういうわけで、兄弟たち、神の憐れみによってあなたがたに勧めます。自分の体を神に喜ばれる聖なる生けるいけにえとして献げなさい。これこそ、あなたがたのなすべき礼拝です。あなたがたはこの世に倣ってはなりません。むしろ、心を新たにして自分を変えていただき、何が神の御心であるか、何が善いことで、神に喜ばれ、また完全なことであるかをわきまえるようになりなさい。わたしに与えられた恵みによって、あなたがた一人一人に言います。自分を過大に評価してはなりません。むしろ、神が各自に分け与えてくださった信仰の度合いに応じて慎み深く評価すべきです。』

礼拝讃美歌⇒187 番

『主は来たらん再び』

礼拝讃美歌⇒43 番 (旧 186 番)

『いとも奇しきかな』

《建徳要旨》

- ① ヨハネ 13 章 1～17 節：それから、たらいに水をくんで弟子たちの足を洗い、腰にまとった手ぬぐいでふき始められた(5 節)。謙遜と愛を十字架の前夜、弟子たちに示された主イエス。洗足は卑しい奴隷のすること、それを進んでされた。驚くペトロに、「今は分からなくても、後で分かるようになる」と言われた。後とは、十字架と復活、昇天と聖霊降臨の後。聖霊を受けて、旧約聖書を読み直し、ああ、そうだったのか、とパノラマが開けるように分かったに違いない。謙遜の模範を示され、自らを犠牲にする愛で愛されたことが。それをヨハネは書き残した。礼拝を表現する英語が service (相手に仕えるサービス)。礼拝は私たちが神の前に平伏し仕えることなのに、反対に、神がキリストを通して私たちに仕えて下さっていると気づかされます。それを示すのがルカ 22 章 27 節です。 (K・H)
- ② ローマ 12 章 1～3 節：キリストにおける新しい生活。新しくされた者として 12 章の御言葉をどれだけ実感して受け止めているのだろうか。心もとない思いでいた。祈りの会に招かれ、ある姉妹の証しを聴いた。ローマ 12 章は、ああしなさい、こうしなさいと、自分が打ちたたかれているような読みたくない箇所。そんな時、入院中の友へのお見舞いが、本当に喜ばれていたのかを思わされる事情が与えられた。愛の乏しい自分の隠された心を神様に示され、純粋に相手の魂に触れたいと祈った。自分がするのではなく、こんな私を何とかしてくださいと神様の憐れみを祈った。不思議と、今まで重荷だったローマ 12 章が喜びの章に。心を新たにすると神様が変わってくださることが実感でき嬉しかったとの証し。時にかなった主の御業を思い、尊い御名を賛美します。 (M・S)